

産官学が連携し、 オール関西で災害に備える！

京都大学 地球環境学堂

浅利美鈴

mezase530@gmail.com

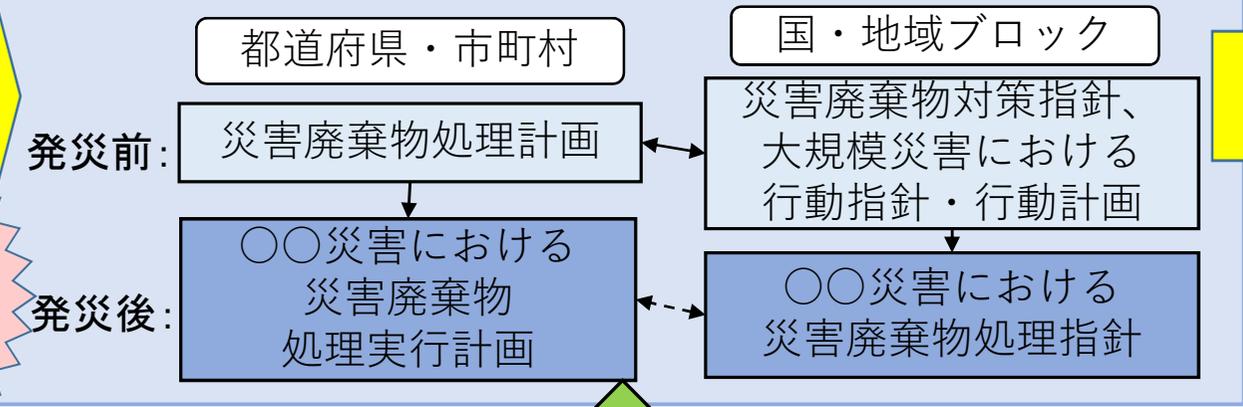
災害廃棄物への対応

東日本大震災
 ……処理に長期間を有し、社会問題化

南海トラフ巨大地震…
 発生量見込みは、東日本大震災の10倍以上

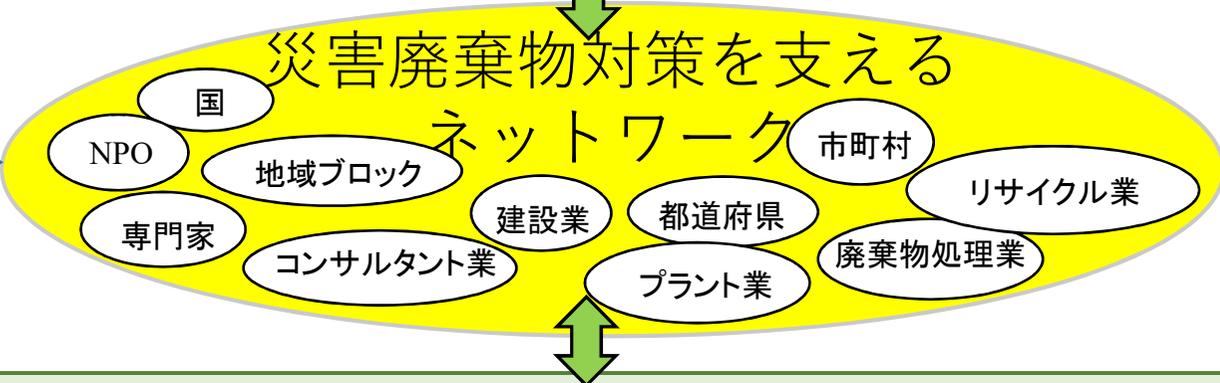
毎年恒常的に発生する災害への対応（頻発・巨大化）

災害対策基本法と廃棄物処理法を中心とした災害廃棄物関連制度や指針等



運用への基盤システム整備が求められている！

中でも計画作成から始まる事前の備えが重要



切れ目のない災害廃棄物対策に向けた課題と進化

(1) 今後の中小規模災害における知見蓄積と反映

(2) 広域連携が進む制度運用(廃掃法基本方針や交付金との連携)

(3) 社会蓄積されるストック材の3R方策に関する検討

(4) 世界各地の災害対策の経験共有や国際連携

(一社) 廃棄物資源循環学会

- 概要

- 1990年 廃棄物学会としてスタート。2008年に現在の法人へ。
- 現在の学会員数：2,441人（法人会員や市民会員を含む）
- 和文誌、英文ジャーナルの他、各種マニュアルや一般向け「循環とくらし」などを発行
- 研究発表会、シンポジウム等、多数開催

- 災害廃棄物研究部会

- 2018年度よりスタート

- 2019年の研究発表会

- 9/19-21@仙台
- 研究発表会（シンポジウム、口頭発表、ポスター発表）
- 災害廃棄物書籍（朝倉書店）出版記念シンポジウムも開催予定

2019年1月25日 災害廃棄物処理に係る交流セミナー実施概要

- 災害時に研究者等と自治体職員が上手く協働するためには、普段からお互いのことを知り、災害時の役割や貢献できる内容を知っておくことが重要
- 災害廃棄物処理における活動や連携の在り方について、様々な立場の関係者が、考え議論する場として機能することを目的に実施

参加者

一般（自治体職員、民間事業者、NPOほか） 56名

ゲスト 3名

廃棄物資源循環学会 関西支部学会員 13名

廃棄物資源循環学会 災害廃棄物研究部会メンバー9名

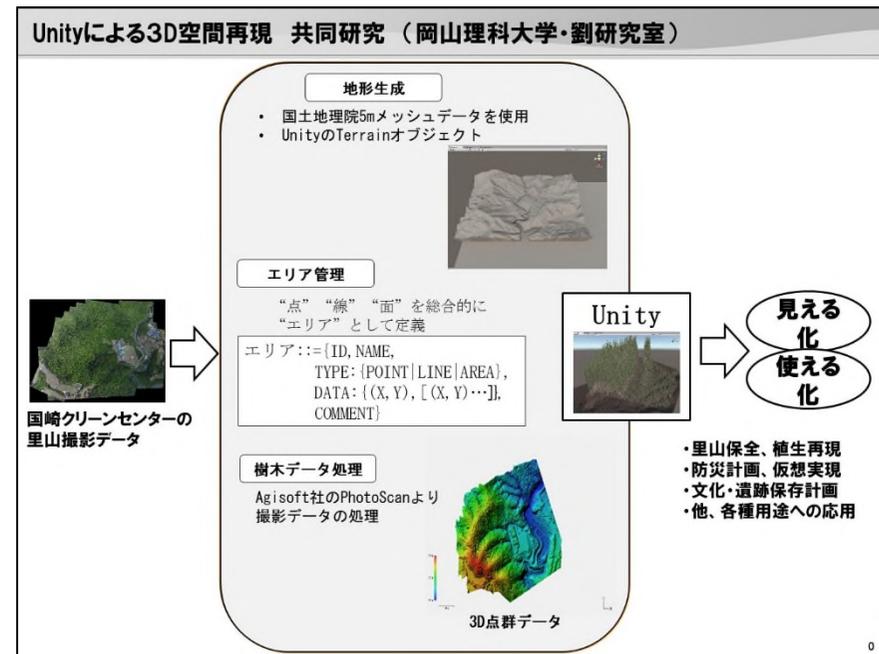
プログラム

1. 開会の挨拶 渡邊信久氏（大阪工業大学）
2. 講演「災害廃棄物処理の最新事例」
若林完明氏（環境省近畿地方環境事務所）
3. 熊本地震における災害廃棄物処理映像の上映
4. ドローン技術の活用紹介
鈴木榮一氏（国崎クリーンセンター）
奥田哲士氏（龍谷大学）
5. 関西地域の研究者紹介
6. ワークショップ
（メンバーを入れ替えてグループワーク2回）
7. ドローンをさわってみよう（希望者のみ）

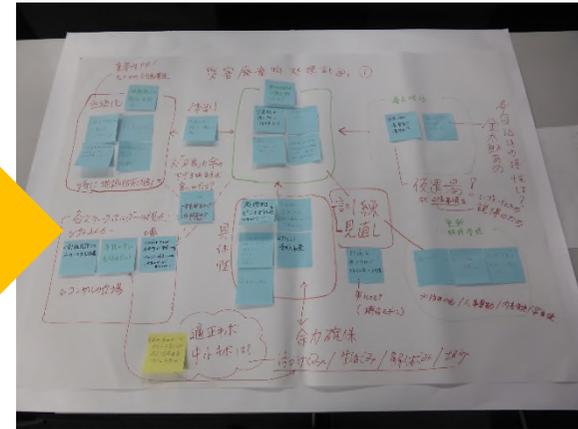
懇親会

ドローン技術の活用紹介 鈴木榮一氏（国崎クリーンセンター）

- ▶ 里山保全・防災・災害廃棄物処理への可能性
- 国崎クリーンセンター啓発施設（ゆめほたる）での里山保全、環境教育などにおけるドローン活用
- 活用事例の紹介（測量、防災、林業、獣害、環境調査など）
- ドローンの基礎知識（法令や操縦方法等）



ワークショップ



4つのテーマごとに議論

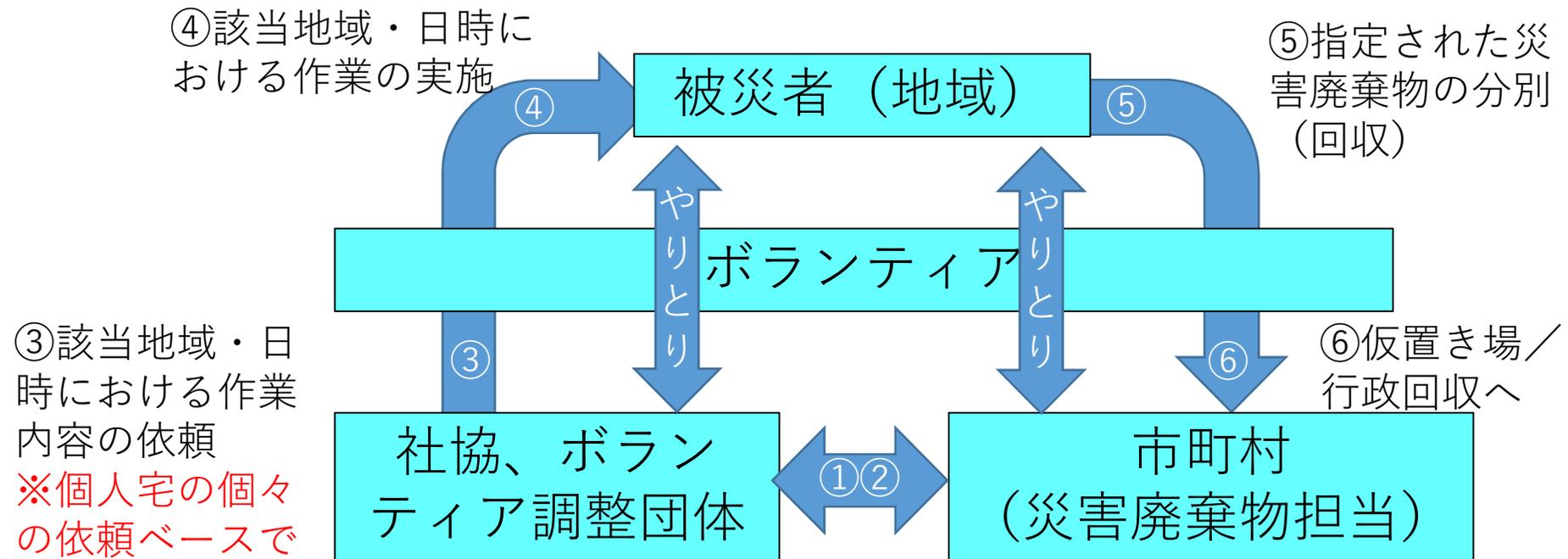
- ・ 災害廃棄物処理計画の策定と見直し
- ・ 災害廃棄物発生量の推計
- ・ 仮置場の設置と運営
- ・ 処理困難物・危険物への対応

計画立案に携わるコンサル関係者や処理に関わる事業者も参画

ファシリテーター役を事前に学会員に依頼し、スムーズかつポイントをおさえた議論の進行に努めた。

その他の情報提供

- 片付けごみ対策：技術指針に追加予定
- ボランティア連携方法の改善へ



《初動時》

- ①ボランティアや被災者ニーズに関する情報共有
- ②災害廃棄物への対応方針に関する情報共有

《応急時》

- ①②進捗や課題に関する情報共有（できるだけ定期的に）